

秋の短歌大会



短歌の世界に入って、初めは5・7・5・7・7と並べるだけで精一杯でした。ありのままに情景を詠み、そこに気持ちを表現すればいいです。ところが木下先生の講義によると、上手になるとその句の歌の裏に込められた制作者の気持ちを読み取る面白さ、心地よいリズムで季節に秘められた言葉の美しい日本語を守って文化の発展にしたいと先生は教えながらいつも言葉の深さを感じさせる講義をなさる。受講生が40~50名います。自分の作品は徹底的に推敲吟味する。ちょっとした言葉遣いにも注意してメモするように。大島史洋先生の講和で河野裕子の生涯の短歌の流れを講和された。死の直前の短歌「手をのべてあなたとあなたに触れたきに息が足りないこの世の息が」私の心に（息が足りないこの世のいきが）何とすごい表現と心の奥深くしみわたった。拙い私が皆さんの短歌を批判致したこと、深くお詫び申し上げます。

撮影・平成28年10月9日



願

い

の叶った人達

区長 青木克徳の挨拶



葛飾区長さんのお話では、今、区内には文化活動が十八個もある。それらを盛り上げてるのは皆さんです。区内には最高齢が一〇〇才で一〇〇歳以上が一六〇人。健康だから活動が出来ることです。体力、頭脳、生きがいを持ち一〇〇歳を超えるままで楽しんで短歌を続けて下さい



講師 大島史洋先生は岐阜県中津川市の昭和十九年生まれ、早稲田大学卒業、短歌で若山牧水賞、迢空賞（短歌会で最も権威ある）を取る。父親が短歌をやっていたのでその影響で短歌の道に入る。郷里に帰り松本城を見ると、なんと素晴らしく凜としたお城だと思う。御年も七十歳を過ぎても二年毎に同窓会をやるうと旧友たちが迫る。短歌は正岡子規から入り先生は川の中を流れるに、しいたげられ浸かっている自転車の流れてくるさまの歌が多い。大島先生の「神田川潮で引く頃自転車が泥の中より半身出す」以前穂高先生が堤防の所に投げ捨てられてあった自転車の写真を見て、文を作った時の素晴らしさを思い出しました。



雷鳴に負けじとひびく蟬の声
命の限りを思い鳴くのか

高点歌唱賞 植木一江

義姉妹でそろって賞いただくなって、なんと素晴らしいことでしょう。雷なりに負けじと啼く蟬を考えると哀れをヒシヒシと感じる。 一江さん

戦災の飢えを肌に焼き付けての生涯をおくる。後世に伝えておきたいあの苦しさを 洋子さん

餓ゑを知る今も直らぬ夫の癖

明日のためにと一口残す

高点歌賞 植木洋子

本日は誉れある日でした



玉音を聞きし日のごと蝉しぐれ
耳にし天皇のお言葉を聞く
木下孝一先生



写真右側は弭間正記さん、銀行員で退職後も居心地がよくそこで十年を過ごす。短歌の講習会に参加した時、村田さんに、立派に表現できるから始めてみませんかと勧められて入る。左側の八木政太郎さんは今年の講師賞は外ずしてしまっただが、唸るような良い歌をいつもつくる。気心の合う仲間同士である。



人気なき野辺にてあれば鮮やけ

イケメンの
介護士に向ける
母の目に
吾には見せぬ
潤いを見る
高点歌賞 西川芳子



旭川の
空射るごとき
一筋の
信号のなき
白き道行く
講師賞 高点歌賞
伊藤志津子



私の短歌に何人かの人
が投票して下さり、感
謝の気持ちでいっぱい
です。壇上に賞状を頂き
に行くのは嬉しいこと
ですが、とても恥ずかしい
ですと話して下さいました

甘楽百合子さん

今日の短歌大会で一番良くできた講師賞と大島先生が褒められていた吉田久枝。



歳月は
迷ひ人のごと
キャンパスの
けやきの下に
われを立たしむ
講師賞 吉田久枝

つゆくさ
いぬたて
鴨跖草のあを犬蓼の紅

点滴の

車を押して

廊下行く

見舞いの夫をつま

見送るために

講師賞 高点歌賞

田中弘子



二重に賞を得られて本当に嬉しいです。早く夫に自慢したいですね。自慢するよりも感謝と優しさの深さを得られ、宝石よりも重く輝いていきます、とのろけて答えてくださった。

田中さん



高点歌賞 安部巳佐子

秋の日に
千す白足袋の
かがやけり
金婚式の
想ひとどめて

歌集を常に読んで感動したものは頭に入れて、いつかそれらを表現できたらいいなあ、理解の出来ないものは調べるがそれでも解らない時は読み流してしまおうと語って下さった、大島先生の御本を三冊もお読みなさったと言う。けど秋山さんに褒められてもね……？

と勉強家の安部さん、にこやかに微笑ながら答えて下さ



靖国のみ霊よ容せ兵不合格ゆるの

吾すこやかに九十一歳

講師賞と高点歌賞 斎藤紫郎



斎藤紫郎さんは今年九十一歳を迎える。高齢なお年なのにご吹く風と、短歌大会の講師大島史洋先生の講師賞と高点歌賞の二種類の賞を獲得する。四十〜五十年前に村田さんのお母さんから優しく教えて頂いた。それからこのうるさいババア様とやってきたのが、いい結果を出したのでしょうか。中央に映る斎藤紫郎さん。



欲張らぬ
余生ときめて
波立てず
とは言え少し
おもしろくなし

「講師賞・高点歌賞」

宮田昌武

宮田昌武さんは、昭和十三年生まれ七十八歳のトラ年。母もトラ年トラの子供だからトラ猫だからおとなしかった。祈る合掌と目が良く表現されて写されている。上の写真の斎藤紫郎さん、宮田昌武の二人共講師賞と高点歌賞を獲得。本当におめでとうございます。年なにか何処へも飛んでいけ。